

2026 年熊本地震の地表地震断層： 変位量分布と 2016 年地震断層の再変位

熊原康博（広島大学）

ポイント

■日奈久断層帯の高野－白旗区間および日奈久区間の一部に、右横ずれ変位を主体とする、全長 38km の地表地震断層を確認。

■トレースの特徴と変位量の違いにより、3つの区間に区分できる。

・A 区間（24km）：変位量は区間中央で大きく（最大 127cm）、両端で減衰。トレースの連続性は良い。

・B 区間（7km）：変位量は小さく（最大 28cm）、トレースの連続性も悪い

・C 区間（7km）：変位量は小さく（最大 22cm）、トレースの連続性は良い。

2016 年熊本地震の地表地震断層上で認められた。

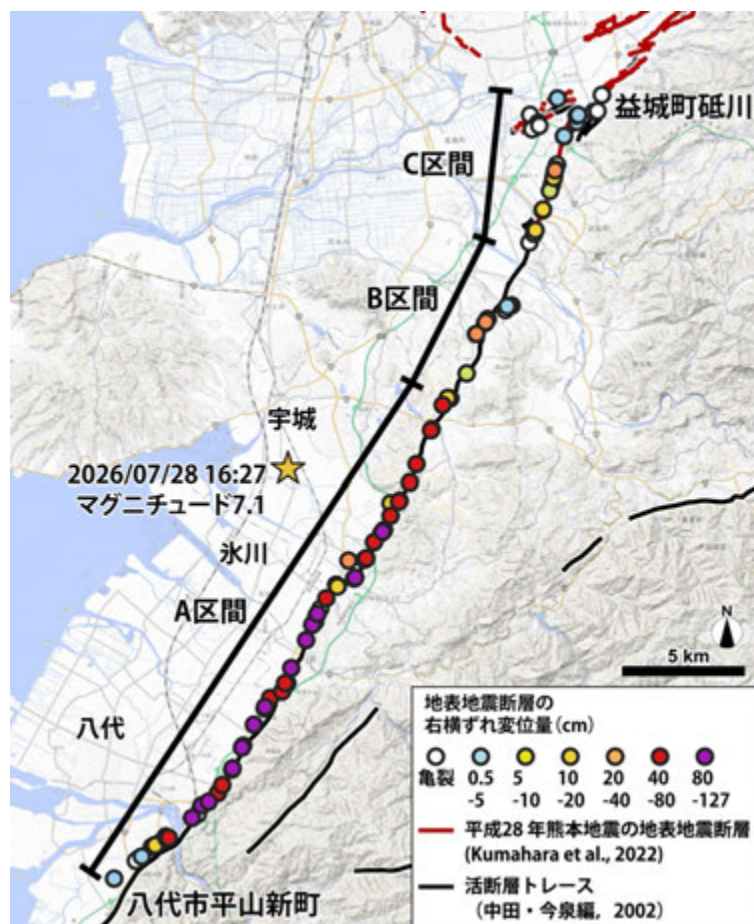


図1 2026 年熊本地震の地震断層の計測地点と右横ずれ変位量

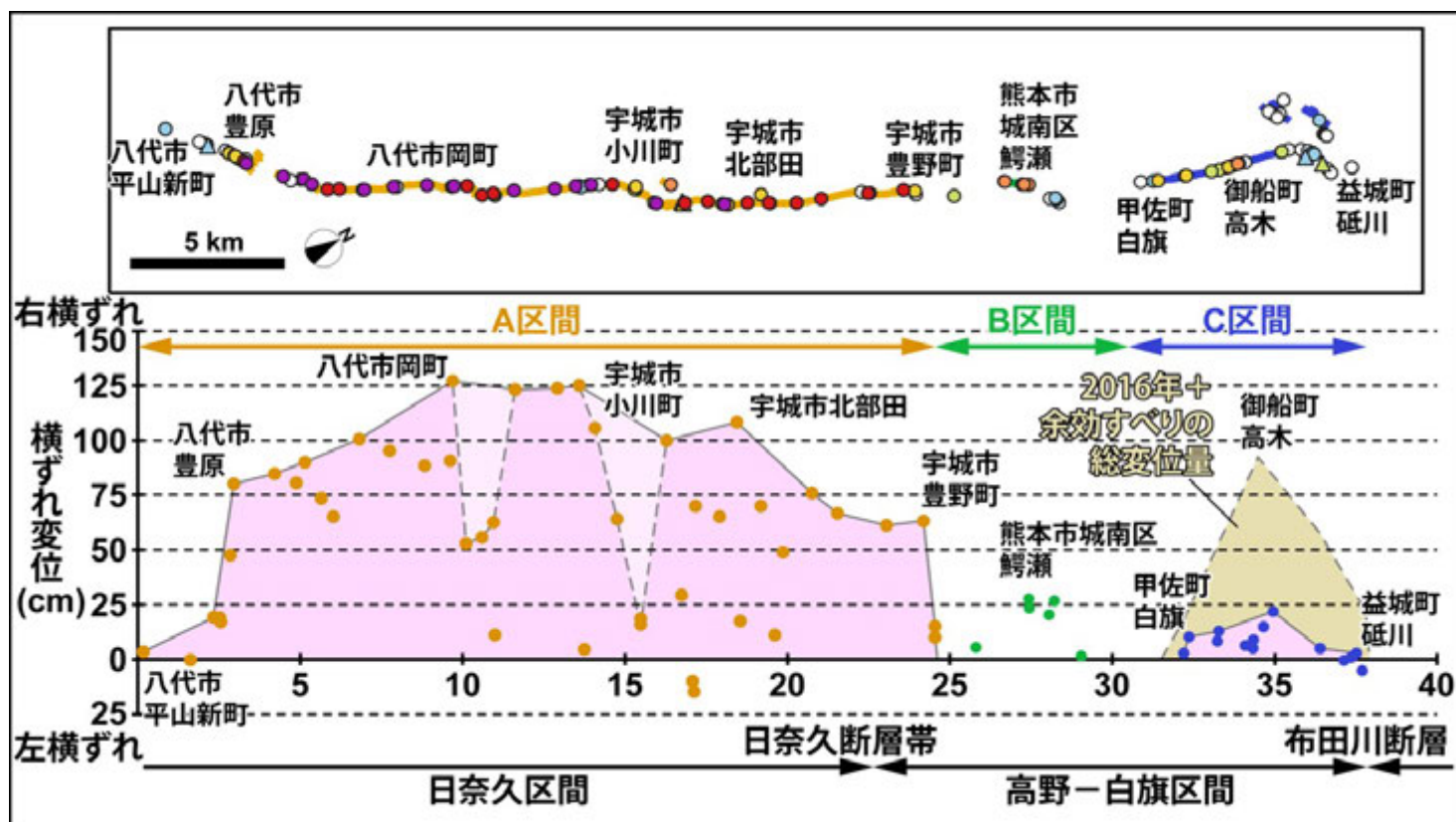


図2 2026 年熊本地震の横ずれ変位量分布と 2016 年熊本地震及び余効すべりの変位量を加えた総変位量の分布